

文書館だより
ふみくら
文庫

創刊号

2004年7月15日発行

もんじょかん
藤沢市文書館

Fujisawa city archives

〒251-0054 藤沢市朝日町 12-6

電話 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172

URL <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/jyohou/data06001.shtml>



日露戦争凱旋(がいせん)式記念 明治39年(1906年)5月13日撮影 (三橋鉄雄氏提供)

整列した人々:(前列右から)加藤武雄・三橋善吉・小田常吉・小池浅五郎・山崎松之助
(後列右から)中川良基・和田路周・岩田音松・畔柳政徳・櫻井兵四郎・諏訪眞名夫・石井八重蔵 (敬称略)

もくじ

藤沢市文書館の業務 / 文書館って何ですか？	2
刊行物発行のお知らせ	3
ミニ展示のご案内 / 連載・古文書の読み方 / 編集後記	4

藤沢市文書館の業務

市民資料室

当館 1 階の市民資料室では、「郷土資料」と市役所が刊行した「行政資料」類を閲覧していただくとともに、藤沢の歴史や資料に関する相談・問い合わせに応じています。

「郷土資料」は歴史、民俗、地理、教育などの資料を中心とし、特に江の島や遊行寺にまつわる資料をできるかぎり集めることを目指しています。その他藤沢市内で刊行された各種同人誌なども集めています。また、「行政資料」は、市議会の記録や市役所の各課が作成した事業概要や各種統計書類、教育委員会発行の文化財報告書などの刊行物がその主なものです。

市史編さん室

市史編さん室では、平成 4 年(1992 年)から『(続)藤沢市史』編さん事業を開始しました。この事業は地域住民の生活の視点に立った、新しい市史を再構築しようとするもので、関係資料の調査・収集や聞き取り調査を行っています。

平成 12 年(2000 年)には、別編 1 として『市民が語る 60 年』が刊行され、現在は地方版新聞の記事等を収録した別編 2 の刊行を進めています。

資料の収集・整理・保存

当館では、中世から現代に至るまでのさまざまな資料類を収集・整理・保存しています。保存にあたっては、中性紙製の封筒や保存容器を利用するなど永久保存に努めています。文書館の収集資料は市民資料室で閲覧することができます。また資料の調査研究の成果は刊行物に

掲載しています。

普及・啓発活動

当館では普及・啓発事業として、展示や歴史講座等を企画・開催しています。

このうち展示については、今年の夏に明治初期から昭和 20 年(1945 年)の敗戦までの歴史を概観した「戦争・軍隊・外地」を開催しました。この展示については、『藤沢市文書館紀要』第 26 号の報告を御参照ください。

また、今年の歴史講座の内容については、『藤沢市史研究』第 37 号を御参照ください。

公文書の保管および評価・選別

当館では、市が作成した膨大な公文書を保管しています。これらは、市の業務を行う上で大切なものですが、市民の方々にとっては情報公開の対象でもあります。

また、保存期限を過ぎた公文書は廃棄されますが、それらの中から「歴史資料」として価値あるものを評価・選別し、後世に伝えるため保存しています。



もんじょかん

文書館って何ですか？

文書館(アーカイブズ、archives)とは、「個人や、個人の集合体である組織体(役所、企業、団体など)が、その活動を遂行する過程で特定の目的をもって何らかの媒体に記録した一時的な情報、つまりナマの記録群(レコーズ、records)のうち、法的、業務的な価値や歴史的、文化的な価値のゆえに情報資源として永続的に保存されているもの、あるいは保存されるべきもの」を「保存し公開利用に供する機関ないし施設」(安藤正人・青山

英幸編著『記録史料の管理と文書館』北海道大学図書刊行会、1996 年)であり、社会の記憶装置というべきものです。

文書館で保存されるべき対象は、古文書などの紙に記されたものだけでなく、写真や映像フィルム、音声テープなども含まれます。

当館は「もんじょかん」と呼びますが、機関によっては、その由来などから「公文書館(こうぶんしょかん)」や「文書館(ぶんしょかん)」などと呼ばれることもあります。

文書館刊行物発行のお知らせ

平成 15 年度に文書館が発行した刊行物です

これらについては、文書館および市役所本館1階の市政情報コーナーで有償頒布しています

『藤沢市史研究』第 37 号 (価格 600 円)

歴史講座

- 湘南の誕生 (小風秀雅)
- 外国人と藤沢 (内海 孝)
- 岸田劉生と鵜沼 (横田洋一)
- 松竹大船撮影所と湘南の風景 (加藤厚子)

資料紹介

藤沢市文書館に所蔵される軍事関係資料の概要について (中村 修)

書評・新刊紹介

- 横浜近代史研究会・横浜開港資料館編
『横浜近郊の近代史-橋樹郡に見る都市化・工業化』(高嶋修一)
大西比呂志・梅田定宏編著
- 『「大東京」空間の政治史-1920～1930年代-』(能川泰治)
寒川町企画部町史編さん課編
- 『さむかわ歴史ものがたり 100』(黒川徳男)

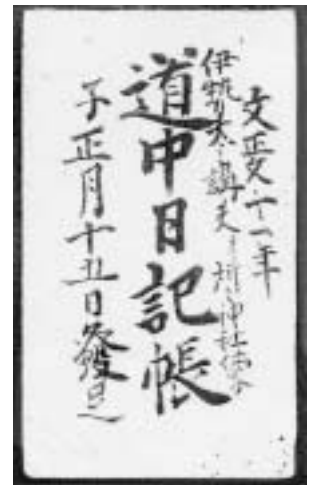


『藤沢市史料集』第 28 号 (価格 500 円)

本号に収録した史料は、現在確認されている藤沢の伊勢参宮関係資料の中から、「伊勢参宮紀行」および「伊勢参宮道中日記帳」の 2 編です。

まず「伊勢参宮紀行」は、藤沢宿坂戸町の旅籠(はたご)平野屋の九代目新蔵が、文政 11 年(1828 年)に伊勢参宮および秋葉山や京都・奈良など関西方面への旅日記です。ちなみに平野屋は「弥次さん喜多さん」の珍道中の話で知られる『東海道中膝栗毛』にも登場する旅籠であり、代々地元の宿役人を勤める旅籠でもありました。なお、九代目新蔵は、藤沢における地方文人(ちほうぶんじん)の一人でもありました。

次に、「伊勢参宮道中日記帳」は、羽鳥村の名主であった三齋佐次郎(のち八郎右衛門)が同じ文政 11 年に行った伊勢参宮について記した旅日記です。この資料には、金刀比羅宮参詣の記事も収録されています。



とうたぐさんにつかん

『藤沢山日鑑』第 22 巻 (価格 4,000 円)

市内にある遊行寺(藤沢山清浄光寺)に残されていた日鑑(日記)のことで、現藤沢市域の歴史を考える上で第一級の歴史的資料とされています。

この巻には、弘化 2 年(1845 年)から同 4 年(1847 年)までの遊行寺を取り巻くさまざまな出来事が記されています。右の写真には、ピッドル率いるアメリカ東インド艦隊が浦賀に来航したことを伝える記事が記録されています(本文 239 ページを参照)。

また、口絵には遊行 42 代である尊任(南門)上人の木造座像(江戸時代・遊行寺蔵)および絹に彩色された後醍醐天皇像(南北朝時代・遊行寺蔵)の写りが収められて、巻末には、「尊任・尊観と清浄光寺」についての解説が掲載されています。



ミニ展示のご案内

1階ロビーでは、ミニ展示として「帝国在郷軍人会関係資料」を展示中です。

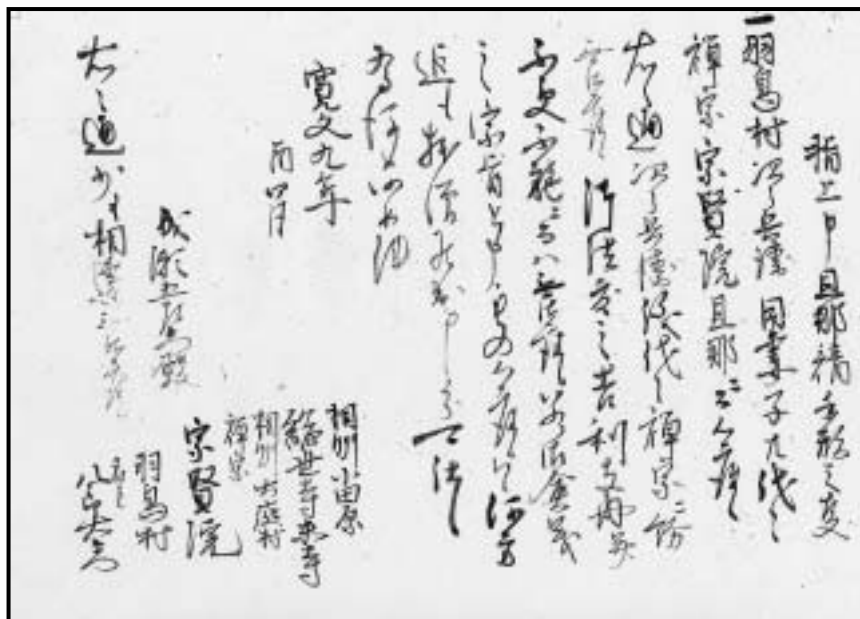
帝国在郷軍人会は、兵籍にある者で現実に軍事上の勤務に服さない人々の全国組織として、明治末期に設立され、大正末期には軍部の外郭団体として位置づけられました。この団体は、戦時動員の準備にかかわるだけでなく、軍事知識の普及などで大きな影響を与えましたが、敗戦に伴い解散しました。

展示では、成人教育政治講座開設を在郷軍人会幹部に宛てて伝えた高座郡役所文書、海軍による軍事普及映画会の案内チラシ、満州事変のさなかに出された参謀総長の回答文を紹介しています。

連載・古文書の読み方

ひとつの古文書は、多くの歴史的事実を私たちに語りかけてきます。この連載ではそれらを解きあかしていきたいと思います。

右の文書は、寛文9年(1669年)に、羽鳥村の次郎兵衛さん一家が禅宗の信徒であることを、大庭村のお寺(宗賢院)が証明し、名主(八郎右衛門)が裏付けたものです。



(問題) この文書には、江戸時代において禁制の対象になった宗派が2つ記されています。それは何と何でしょうか。(答えと文書の読み方は次号で掲載します)

資料情報をお寄せください

当館は、文字や写真、音声等の記録資料の収集や保存を通じて、藤沢市域の大切な記憶を後世に伝える手助けをしたいと考えています。

御自宅で文書資料をお持ちの方や、資料を保存している方を御存じの方は、当館までぜひ御連絡ください。

表紙の写真に写っている人々の御子孫の方々、および御子孫を御存じの方がいらっしゃいましたら、当館まで御連絡いただければ幸いです。また、背景となった邸宅に関する情報もお寄せください。

【編集後記】

当館は、1974年(昭和49年)7月1日に、市町村立初の単独文書館施設として開館されてから、さまざまな活動を続けてきました。開館30周年を迎えて、当館の活動を市民の方々によりわかりやすく紹介するために、季刊を目安に「文書館だより 文庫」を発行することにしました。ちなみに、文庫(ふみくら)とは、「書籍・文書類を納めておく所」(『日本国語大辞典』小学館)で、「文殿(ふどの)」とも呼ばれていました。

今後とも御愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。(な)